

## ウシの採卵における過剰排卵処理の簡略化

畜産試験場

### [研究のねらい]

ウシの過剰排卵処理は卵胞刺激ホルモン(FSH)を1日2回、3~4日間にわたり筋肉内に漸減投与する方法が一般的です。しかし、この方法は技術者とウシへの負担が大きく、処理の簡略化が求められています。そこで、FSHを皮下に単回投与することで過剰排卵処理を行い、従来の筋肉内漸減投与法と採卵成績を比較しました。

### [研究の成果]

1. 黒毛和種雌牛3頭を用いて試験を行いました。FSH20 AUを生理食塩水10 mlに溶解して、皮下に単回投与することによる過剰排卵処理後の採卵成績は、従来法の筋肉内漸減投与法(連続3日間、朝/夕 5/5, 3/3, 2/2 AU: 合計20 AU)と比べて推定黄体数、採胚数、正常胚数のすべてにおいて有意な差はみられませんでした。
2. 過剰排卵処理時のウシへのストレスおよび技術者の労力を軽減できます。

### [成果の活用面・留意点]

過剰排卵処理に対する反応性は個体差が大きいです。

筋肉内漸減投与				➔	皮下单回投与		
1日目	2日目	3日目	1日目		2日目	3日目	
朝	5 AU	3 AU	2 AU		朝	20 AU	
夕	5 AU	3 AU	2 AU		夕		

図1 FSHの投与方法

表1 採卵成績

試験区	実施頭数	推定黄体数	採胚数	正常胚数
筋肉内漸減投与区	3	9.3±5.5	8.3±6.7	6.0±6.1
皮下单回投与区	3	5.0±2.6	4.3±5.9	4.0±6.1

(平均±標準偏差)

(問い合わせ先 0739-55-2430)